

# 平成30年度森林総合監理士育成研修事業

開催日時 平成30年9月12日（水）～14日（金）  
研修場所 四国森林管理局会議室（高知県高知市）  
現地研修 朴ノ川山国有林3208林班ほか（高知県須崎市）  
受講者 県職員5名、森林管理局職員3名、整備センター4名

## 【概要】

### 1. 研修運営状況、研修生の様子など

- 1日目は開構式の後、外部講師の(株)サイプレススナダヤ砂田社長からDVDによるスギ材のCLT、ヒノキ集成材の製造状況、CLT製造への経緯と展望の講義。続いて四国局内部講師（職員）から架線系集材システムの講義があり、各班で搬出系統図を机上演習を行った。
- 2日目の午前中は、朴ノ川山国有林で採材の現地実習を実施した。現地踏査は雨天により局会議室において3D映像外による検討となった。午後は高知県森林技術センターにおいて架線模型による講義。
- 3日目は前日の現地実習地を対象に架線系を中心とした集材システムの検討・とりまとめ発表を行い、とりまとめ発表に対して質疑等を行い終了。
- 全体としては①需要側のスギ材を中心としたCLT最新動向の把握、②供給側の集材システム、特に架線系による集材システムの知見拡充と需要の大きな流れを踏まえながら地域特性を持った供給技術が重要であるなどといった研修となった。

### 2. 今回の研修の工夫点

- 四国の特徴である架線系は、索張りの多様性と高度な運用技術が必要であることから、索張りシステムの模型による研修は受講生に理解しやすく、システムの概略が配存しやすいものであり、技術の習得で高い効果を得ることができた。
- また、国有林野GIS、3D-PDF等を元にした立体モデル（断面図）により、架線設計のイメージをつかみやすいものであった。

## 【研修の様子（1日目）】



砂田社長による講義風景

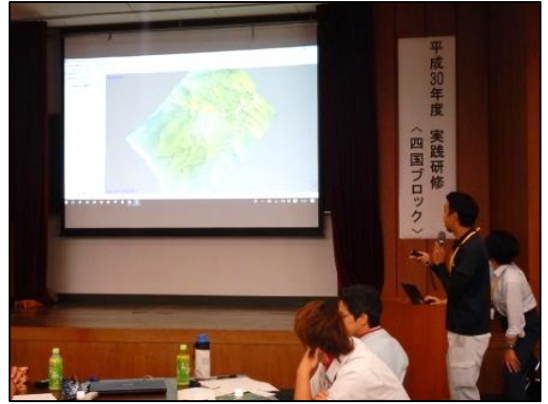


各班で搬出系統図を机上演習の様子

## 【研修の様子（2日目）】



高知県森連高幡共販所による採材の現地実習の様子



3D画像を参考にしながら検討した搬出系統の実習の様子



高知県技術センターにおいて、集材架線模型を使った搬出システム実習の様子



各班からの架線系を中心とした集材システムのとりまとめ発表の様子